

学力調査の結果（中学校）

平均正答率

教科	国語	数学
藤井寺市	61	51
大阪府	62.0	55.5
全国	64.6	57.2

※平成29年度から市の表示は整数

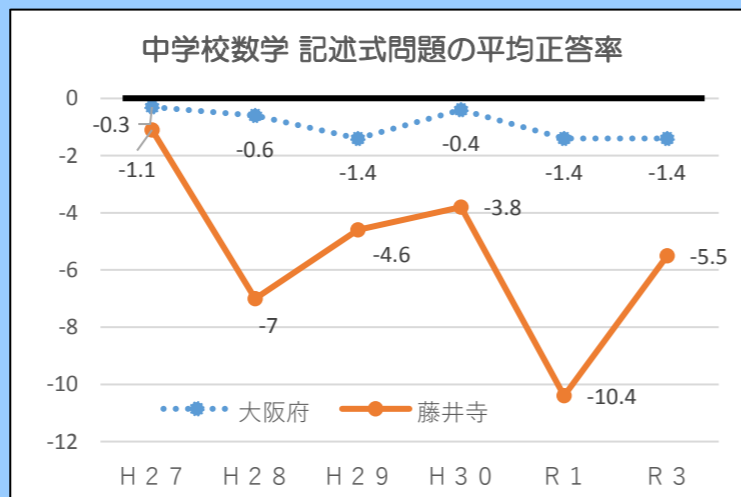
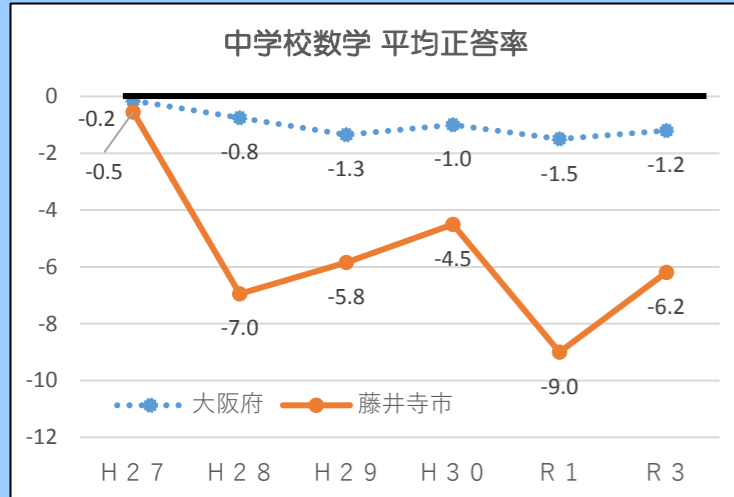
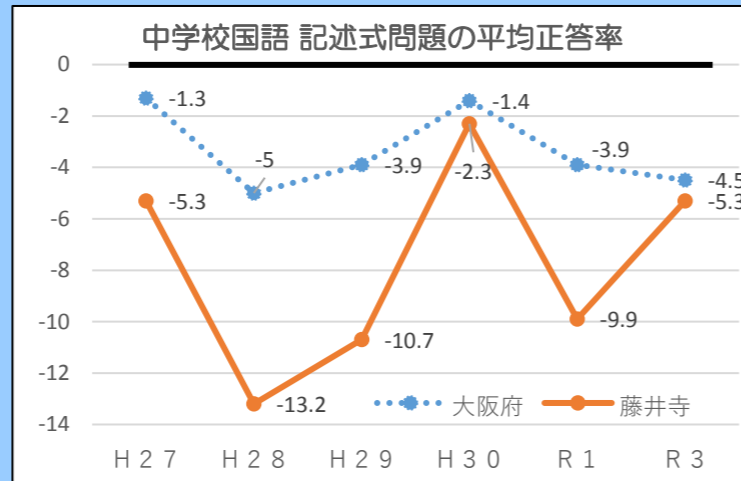
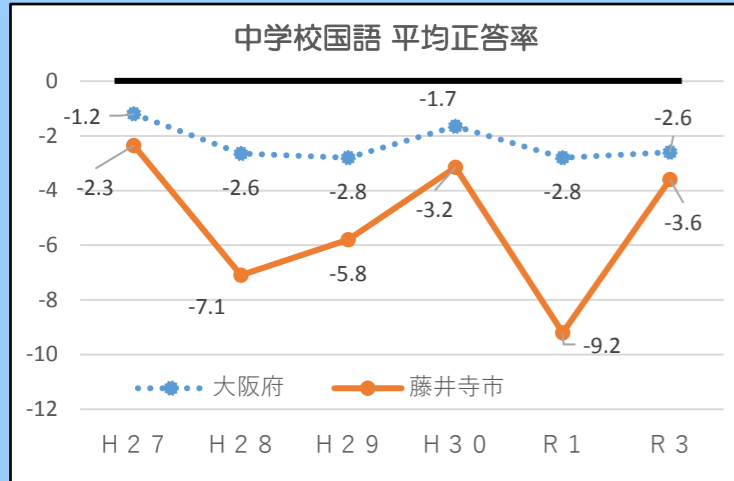
全体的な傾向

- ◆ 平均正答率は、国語・数学とも全国・府平均を下回っている。
- ◆ 記述式の問題に課題がある。
- ◆ 国語は「書くこと」、数学は「図形」に課題がある。
- ◆ 自己肯定感は、全国平均を下回っている。
- ◆ ICTの授業活用は、全国平均を上回っている。

※R2は中止（新型コロナウイルス感染症の影響のため）
※H30以前は、国語、数学のA問題、B問題の平均値で表示

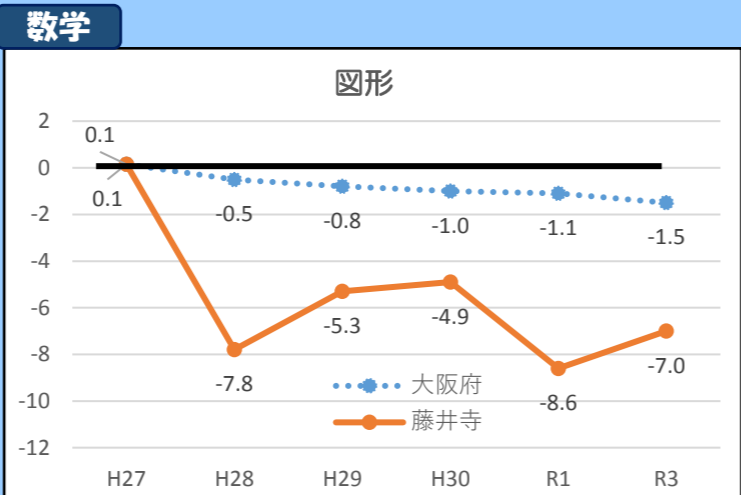
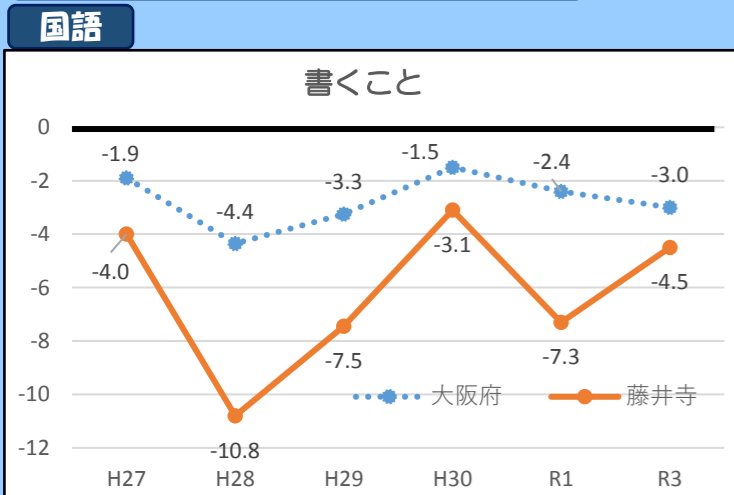
「全体の平均正答率」と「記述式問題の平均正答率」

※全国の平均正答率を0とした時の差



各教科の領域別の平均正答率

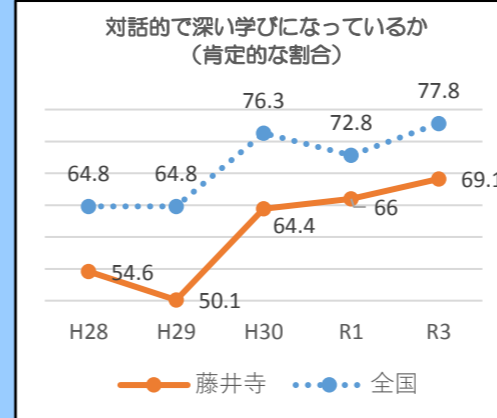
※全国の平均正答率を0とした時の差



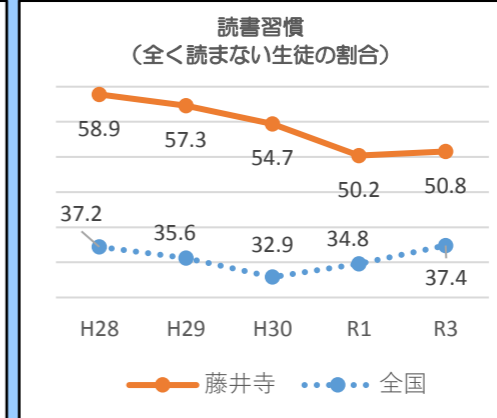
生徒質問紙調査の結果（中学校）

※「ICT活用」は、R1からの調査項目
※「ゲーム時間」は、H30・R1の調査項目なし

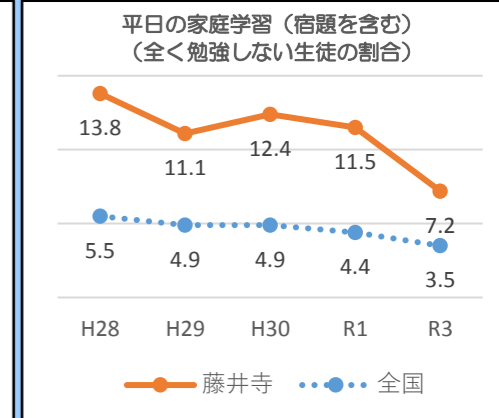
話し合い活動



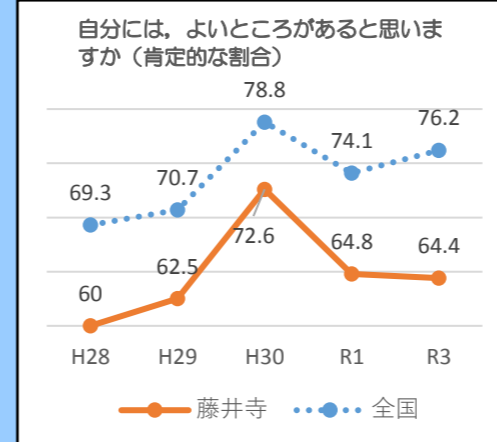
読書習慣



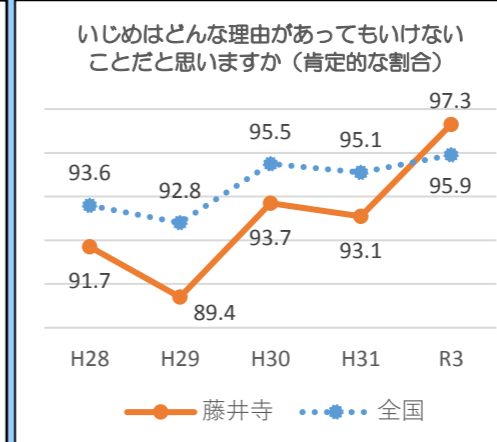
家庭学習



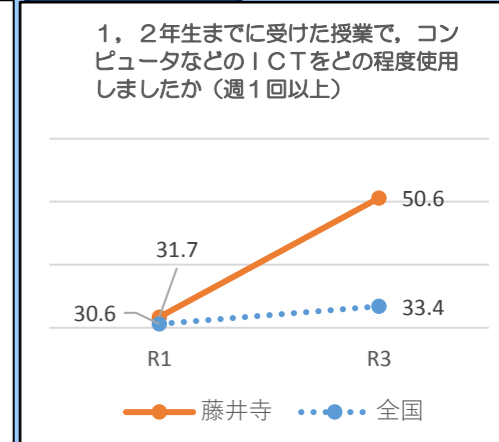
自己肯定感



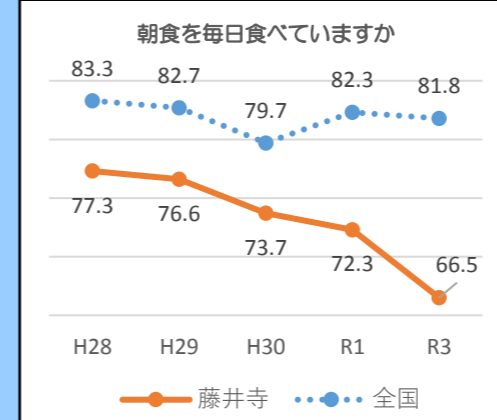
いじめはいけないこと



ICT活用



朝食



今年度の分析結果と取り組みについて

問題形式別では、以前からの課題であった「記述式問題」、領域別では、国語は「書くこと」、数学は「図形」において改善は見られましたが、全国や府平均正答率を下回っています。

国語では、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く【4, 四】」問題に課題が見られました。相手に分かりやすく伝えることが苦手な、授業において自らの意見を伝えたり、記述することを実践する必要があります。

数学では、「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる【9(1)】」問題に課題が見られました。文章問題の読解が不十分であることに加え、文章中から問題を解く上で必要な性質や関係を見出すことに課題があると考えられます。

質問紙において、「いじめに対する意識」や「ICT活用」で、全国平均を超える結果になっております。これは「道徳教育の充実」、「GIGAスクール構想の推進」に力を入れてきた結果と考えています。

「家庭学習を全くしない」生徒の割合は減少傾向にありますが、全国平均と比べるとまだ高くなっております。また、「自己肯定感」に対する肯定的な割合が減少傾向になっていることが課題です。さらに、「朝食を毎日食べる」割合の減少傾向、「ゲームを長時間する」割合の増加傾向については、生徒の学力とも相関関係があるため懸念されるところです。

今年度の取り組みとしては、市内全ての中学校を「ICT活用」、「図書」、「学力」の大阪府モデル校として、学力向上の取り組みを強化しております。また、中学校は部活動が活発になるため、読書時間は減少しますが、市立図書館とのシステム連携を利用し、市立図書館の本を学校で貸出できるようにしています。

ゲーム時間

